

からお年寄りまで の大総路に302人

づくり町民歩け歩け大会



九月十八日、曇り空の日曜日。「町民歩け歩け大会」が行われました。海洋センターを出发し、坂田城あとを巡る10kmの「ウォーク・ラリー」に参加したのは、子供からお年寄りまで三〇二人。地図を頼りに課題を解きながら、大総路をのんびり歩く「地域再発見」のゲームに、広報マンもカメラ片手に参加してみました――



わたし絶好調よ!

さあスタートだ!
「10kmなんて
かるい、かるい」



「親子のきずな」を
しっかりと結んで頑
張ります。



繋ぎ舟濃霧の底となりけり
土屋 栗木
成田 榛子
宇井 芝重
新涼や庭師の捌く棕櫚の繩
藤代 ゆう
新涼のはにわやさしき目鼻だち
津田 若菜
鯛漁屋に鱗の乾きけり
鈴木 南知

生きたる事の重さかみしめ鯛焼く
日向後 雅子
日の匂ひして露地植のトマトかな
若梅あやめ
鯛雲大韓の飛機波に散る
鈴木 草庵
サハリンの空騒がしき晩夏光
海保 きみ

歌壇



ピーマンが熟れて陶器の如光り
海保 きみ
亡き父もかくておはしきはらから
斉藤つね子
の腸病みがちになべて老いづく
斉藤 寛次
実らざる俵に刈られし青稻の強き
香をたつ真陽の強きに
秋葉 とく
友逝きしことを知りたる同窓会年
毎に集ひは小さくなりゆく
吉岡 信子
また逢ふ日誓ひかねつつ別れきぬ
病院の庭に真夏陽もゆる
北田 ふじ
夜を徹し粗乾燥の間なき音すだけ
る虫の音もまじへつつ
伊藤 美穂
皺みたる腕をばもて伸ばしあき
いつしか七十路越えあつ吾の

横芝の碑

129

地域別に見る 庚申様のあらまし(上)



庚申様については、昭和四十七年十一月号で、栗山川畔の庚申様をご紹介して以来、三十二箇所、四十八体をご紹介したことになります。まだ残っているものがあるかも知れませんが、ここで一応区切りをつけ、今までにご紹介した庚申様について、地域別にその点在状況や信仰の様子などの概要を、三回にわたって見直していこうと思えます。

【大総地域】

横芝町の庚申様の中で古いものといえは、山王権現の流れと思われる古川の庚申様を例外として、谷台の鎮守様の参道に建っている延宝八年(一六八〇)、牛熊の貞享三年(一六八六)の庚申様があげられます。

このほか、坂田の正徳元年(一七一)、遠山の正徳二年(一七一一)、町原の享保八年(一七二